

# 日本自然保護大賞 2020 応募用紙\_Word ファイル

webサイトの応募フォームは、入力途中での一時保存ができないため、よろしければ本 Word ファイルで内容をまとめられてから、web フォームにご清書ください。郵送でご応募される場合は、このままお使いください。お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## ●応募者の情報

<b>候補者氏名</b> (個人名、団体名、企業名、学校名、自治体名) 認定 NPO 法人自然再生センター		
<b>設立年</b> (団体・企業等の場合) 平成 19 年 4 月 19 日	<b>部署名</b> (団体・企業等の場合)	
<b>代表者氏名</b> (団体・企業等の場合) 熊谷昌彦 理事長	<b>担当者氏名</b> (団体・企業等の場合) 田中秀典 普及啓発担当理事	
<b>住所</b> 〒690-0064 島根県松江市天神町 114		
<b>TEL</b> 0852-21-4882	<b>FAX</b> 0852-61-0900	<b>E-mail</b> info@sizen-saisei.org
<b>ウェブサイト、facebook ページ</b> など (あれば) <a href="https://www.sizen-saisei.org">https://www.sizen-saisei.org</a> <a href="https://www.facebook.com/sizen.saisei/">https://www.facebook.com/sizen.saisei/</a>		

(団体・企業の場合は、組織や事業の概要が記載された資料も合わせてご提出いただければ幸いです)

## ●推薦者の情報 ※他薦の場合

<b>氏名</b>		
<b>住所</b> 〒		
<b>TEL</b>	<b>FAX</b>	<b>E-mail</b>

## ●応募部門 (複数部門に応募可)

<input type="checkbox"/> 保護実践部門	<input checked="" type="checkbox"/> 教育普及部門	<input type="checkbox"/> 子ども・学生部門
---------------------------------	--	-----------------------------------

## ●応募活動のテーマ (30 字以内)

中海のオゴノリの回収による水質浄化と循環型システムへの取組
-------------------------------

## ●応募活動の概要 (150 字程度)

松江市の東側に広がる中海は日本で 2 番目の汽水湖です。この中海では、毎年夏になると海藻のオゴノリが繁茂し、漁業に影響が出たり、枯れ死した海藻が海岸線に打ち上げられ、腐敗することにより悪臭を発生したりしています。そこで、毎年周辺の住民と一緒に、海藻を刈り取っています。そして、刈り取った水草は、畑で肥料として利用して野菜を育て、育った野菜を食べることによって、循環型のシステムの形成を住民に広く周知する活動をおこなっています。
---

●応募活動の開始年月

2011年4月

●応募活動の詳細・アピールポイント (1000字程度)

島根県松江市の東側には、日本の汽水湖で2番目の広さを持つ中海(86.3km<sup>2</sup>)が広がっている。この中海は2005年11月にラムサール条約の湿地として登録され、毎年約75,000羽のガンカモ類が渡来し、日本で最大級の渡り鳥の渡来地になっている。また、汽水湖という特殊な環境により、多くの魚介類や海藻類が生息・生育している。

しかし、この自然豊かな中海の周辺は、松江市、米子市など山陰でも人口の多い都市があり、戦後、1950年～1960年代の高度経済成長期には食糧増産のために干拓事業などが行われ自然環境の消失と湖水の水質悪化が進んだ。その後、湖沼水質保全特別措置法の指定湖沼となり、中海に流入する富栄養化物質の流入は削減され、湖水の水質改善は進んできた。それに伴い、サルボウガイの復活や、海藻類も再度繁茂するようになり、自然再生が進んできているように見える。

しかしながら、地球温暖化の影響のもとで自然が再生する過程において、特定の種が異常に増減する場合があります、中海の場合は海藻のオゴノリであった。このオゴノリは、中海における漁業に影響があるだけでなく、腐敗して湖底に滞り、ヘドロ化して水質悪化を招いたり、湖岸に打ち上げられ腐敗し悪臭を放ち、親しみやすく良好な景観を湖岸域に形成することができない状況を作りだしている。それは地域住民の生活環境を悪化させる事につながっていた。

そこで、2011年から地域住民と一緒になって、繁茂しているオゴノリを回収し、良好な景観の維持と、富栄養化物質を系外に排出することにより、湖水環境の改善に取り組んできた。ただし、回収されたオゴノリは、これまでは産業廃棄物として焼却処分をおこなっていたため、資源として有効活用されていなかった。

回収したオゴノリを有効活用するために、畑の肥料として活用する小規模実験を行い、ある程度の有効性が認められたため、昨年度から本格的に野菜の栽培(枝豆やサツマイモ)をスタートした。栽培した野菜は、NPOの事務所の軒先でオゴノリを利用した栽培したことをアピールしながら地域住民に販売したり、NPOが主催する地元食材を使った食事をする会で紹介したりすることにより、オゴノリの有効利用について広報している。さらに、松江市のふるさと納税の返礼品としてこれらの野菜を登録し、全国に向けてもオゴノリを使った循環型システムのアピールを行っている。

中海では化学肥料が使われる前は、中海の海藻類を肥料として使って農作物を栽培しており、湖と畑・水田が密接に関係していた。現在は、その関りが途切れているが、この活動を通じて途切れた関係を復活させることにより、中海の自然再生及び自然環境の保全と普及啓発に貢献していると考えている。

●応募活動の写真

応募活動のアピールポイントがわかる写真を3点ご提出ください(各2MB以内、写真キャプションを各30字以内)。

郵送で応募される場合は、プリントした写真をお送りください。

**写真1 キャプション** オゴノリを地元住民と回収している状況



写真 2 キャプション オゴノリを使った野菜の栽培をしている畑の状況



写真 3 キャプション 栽培した野菜を NPO の事務所の軒先で販売している状況

